

平安杯
第62回全九州バレーボール総合選手権大会
兼 第72回国体選手選考高校県予選大会
代表者会議資料

4月11日(火) 北中城公民館

- 1, 競技日程 平成29年4月22日(土)～24日(月)
- 2, 会場及び開始時間 4月22日(土) 美里工業、美里、コザ、北谷、中部商業
23日(日) 沖縄市体育館(2面)
24日(月) 沖縄市体育館(2面)
- 開館時間 沖縄市体育館(8時30分) 高校会場(8時30分)
試合開始 初日9時30分(追い込み式) 二日目・最終日10時00
- 3, 参加チーム 男子 40(36)チーム 女子 43(44)チーム 計 83(80)チーム
- 4, シード校
男子(西原・美工・首里・名護)以上ベスト4 (沖工・宮総実・那覇・宮古)以上ベスト8
女子(西原・首里・コザ・具商)以上ベスト4 (那覇・首里東・前原・浦添)以上ベスト8
- 5, 競技方法 トーナメント方式、3セットマッチとし、上位4チームによる決勝リーグ戦を行う。
- 6, 地区別チーム数

| 地区 | チーム数 | 男子 | チーム数 | 女子 |
|------|------|---|------|---|
| 北部 | 3 | 名護、北農、沖工専 | 3 | 名護、北農、宜野座 |
| 中部 | 14 | 前原、具志川、与勝、読谷、美里 美来工科、コザ、美工、北谷 北中城、普天間、中商、宜野湾 西原 | 16 | 石川、具商、前原、中農、具志川 与勝、読谷、嘉手納、美里、コザ 美工、北谷、北中城、普天間 中商、西原 |
| 那覇南部 | 19 | 浦工、陽明、昭葉附、浦添 那工、那国際、興南、首里東 首里、沖工、沖尚、真和志 那覇、小禄、那覇西、南風原 知念、豊見城、糸満 | 20 | 浦商、陽明、昭葉附、浦添、那国際 興南、首里東、首里、沖尚、真和志 那商、那覇、小禄、那覇西、南風原 知念、豊見城、豊見南、南商 糸満 |
| 宮古 | 3 | 宮古、宮総実、伊良部 | 2 | 宮古、宮総実 |
| 八重山 | 1 | 八重山 | 2 | 八商工、八重山 |

※諸注意

- 1) エントリーの提出は、当該チームの初戦の試合の開始15分前までに完了すること。
- 2) 第1試合の補助員は当該コートの第3試合のチームで行う。第2試合以降は負けたチームで行う。(IF記録・点示・ラインジャッジ)
- 3) 監督、コーチ、マネージャーは必ずそのマークを左胸部につけること。監督、が外部指導者の場合、登録証を身につけておくこと。
- 4) 隣のコートで試合が行われている場合の練習は、パス程度にすること。
- 5) 進行は初日のみ追い込み、2日目・3日目は1時間設定で行う。
- 6) 第1試合開始30分前から、第1試合のチーム練習とする。
- 7) 公式練習終了15分後になってもコートに来ないチームは失格となる。
- 8) 太鼓等の応援は試合進行の妨げにならない限り認める。

平安杯 第62回全九州バレーボール総合選手権大会兼
第72回国体選手選考高校県予選大会 代表者会議資料

諸 注 意 (総務より)

- 1 各会場とも体育館以外は立入禁止です。
- 2 置き引き・盗難に注意して、貴重品の管理をしっかりとして下さい。
- 3 ゴミは各チーム責任を持って持ち帰って下さい。
- 4 更衣室・ロッカー及び談話室の占有はしないで下さい。
(荷物の置きっぱなしはしないように)
- 5 監視カメラに触れないように、また体育館内ではコート以外でのボールを使った練習は禁止です。
- 6 危険な場所での応援・観戦は絶対にしないで下さい。
- 7 外履き・内履きの区別をしっかりとして下さい。土足厳禁です。
- 8 高校生の運転する車両での来場は禁止です。
- 9 毎回忘れ物が多数出ます。気を付けて下さい。
- 10 JVAへのチーム登録及び個人登録、登録料、今大会の申込用紙(公印)が、まだのチームは、大会に参加できませんので早目をお願いします。
- 11 学校代表としての自覚を持ち、服装など身なりを整えて参加すること。
丈の短いスカートや、シャツ出し、ピアス、化粧、染髪などでの参加は認められませんので、引率の先生方は、事前の指導をお願いします。

※ 沖縄県バレーボール協会HP URL <http://www.oki-va.com>
上記ホームページに、年間行事予定表等のお知らせをしていきますのでご活用下さい。

本年度開催の各大会における個人情報保護方針

沖縄県バレーボール協会

会 長 翁長 良成

沖縄県バレーボール協会は、個人情報の保護を期するため、以下の方針で各大会の運営に努めます。

1 個人情報の取得と利用

大会の参加申込用紙などについては、利用目的を明らかにするなど、個人情報の取得には適正な手続きをとり、参加資格の確認や大会運営業務など、目的以外には使用しません。

2 個人情報の管理

大会参加申込書など、個人情報を適切に管理するとともに、紛失、改ざん及び漏洩などの防止に努めます。

3 第三者への個人情報提供の制限

マスコミ等を除き、事前に本人の同意を得ることなく、個人情報を第三者に提供及び開示しません。

4 個人情報の開示、訂正、削除など

本人が、当該者と識別される個人情報について、開示、訂正、追加、削除、利用停止などを求める権利を保有していることを確認するとともに、これらの要求を受けた場合は速やかに対応します。

なお、本年度もD-PHOTO主宰西原けんじ氏から写真撮影及び作品の場内掲示の申し出があり、検討した結果沖縄県バレーボール協会としては、次の理由により認めるので、利用停止などの権利を履行の申し出があった場合は、速やかに対応します。

(1) これまで数年にわたり、撮影及び作品の場内掲示を認めてきたが、利用停止などの申し出がなかった。

(2) 作品を本人に提供していただき、大会の盛り上げの一助となっている。

(3) 後日、本協会へ作品を提供いただくことにより貴重な大会記録の作成が可能となっている。

Dear Volleyball Friends



公益財団法人日本バレーボール協会（JVA）は、
我が国のバレーボール界を代表する組織団体として、

バレーボール競技を通して

社会に貢献するために

豊かなスポーツ文化を創造し、

人々の心身の健全な発展をその目的とし、

全ての JVA 加盟団体、

全ての JVA 登録メンバーと一体となって

未来を担う少年、少女を守り、

言葉や腕力などによる

暴力行為、体罰、しごきを

絶対に許すことなく、見過すことなく、

彼らの良好なトレーニング環境を維持し、

彼らの明るい明日を築き上げるために

全力を注ぐことを

ここに宣言いたします。



平安杯大会を創始する。
 昭和46年3月、本大会副会長平安常敏が学位授与の折、東京において急逝した。短期間の在位であったが、生前における個人の斯界に対する情熱と行動力を高く評価して、昭和47年進捗バレーボール大会を開催。この年から全ての国体予選大会を平安杯として開催することになり、今日に及んでいる。

平安杯 第62回全九州バレーボール総合選手権大会
第72回 国体選手選考高校県予選大会
審判上の確認

平成29年4月11日

1. 本大会は、平成29年度（公財）日本バレーボール協会6人制競技規則による。
2. チームは監督、コーチ、マネージャー各1名、選手18名以内とし、試合に出場できるのは、選手14名以内とする。ただし、13名以上エントリーする場合は、リベロプレーヤーを必ず2名含めることとする。
3. リベロプレーヤーはチームキャプテンにもゲームキャプテンにもなれない。
4. リベロユニフォームは、他の競技者とはつきりと区別がつくものでなければならない。また、リベロが2人の場合は、同色・同デザインのユニフォームを着用すること。
5. 監督は、試合開始前に、記録用紙に記載されている競技者の氏名のチェック、およびリベロプレーヤーの番号を記入しサインをする。また、チームキャプテンはトスの開始前と試合終了後にサインをする。
6. 各セット開始前、スターティングラインアップを記入したラインアップシートを副審または記録員に提出する。いったん提出されたなら、正規の選手交代をせずに、ラインアップを変更することは認められない。
7. セット開始前に行うラインアップシートとスターティングプレーヤーの照合の際は、リベロプレーヤーを確認する必要はない。（コートのそばに立つ必要はない。）
8. コート上で円陣を組んで掛け声をかけるケースについては、ラインアップシート確認後は最大限スターティングメンバーの6名とリベロ2名の計8名までとする。
9. タイムアウトを要求できるのは、監督あるいはゲームキャプテンである。その際ラリー終了後に公式ハンドシグナルで明確に示すこと。
10. チームメンバーによる不法な行為（相手に向かって”ガッツポーズ”などで挑発・威嚇する行為など）に対しては、競技規則第21条「不法な行為とその罰則」に則って罰則を適用する。
11. 判定に対する質問は、ゲームキャプテンのみであるので、監督や他の競技者からの質問は受けつけない。（判定へのアピール等は警告の対象となります。）
12. 試合の前後は、選手全員がエンドラインに整列し、主審の合図で挨拶（握手）する。なお、監督とキャプテンは、審判員にも挨拶（握手）する。
13. 競技中のコートワイピングについては、プレーヤー自身がコートを拭くことを原則とする。
14. 競技中の服装について
アンダーウェア等について（競技要項 P62 抜粋）
 - (1) アンダーウェアはユニフォームの袖や裾、首等からはみ出してはならない。ただし、プレーの動作によってユニフォームの下から見えてしまうことは故意に見せるものでない限り制限されない。
 - (2) 医療を目的としたサポーター類は、プレー上危険である場合や、プレーに有利に働く場合を除いて、規制されない。
 - (3) 明らかに色が違う腰に帯状にまくサポーター・コルセット類はユニフォームの下に着用しなければならない。※アンダーウェア等についての運用は、規定通りに取り扱います。（2013.7.23 配信済）ただし、丸首のアンダーウェアでユニフォームからはみ出していなければ、Vネック等で襟元から見える状況では可として下さい。たとえチーム全員が揃っていてもハイネックで襟からはみ出していたり、袖から出ているようなものについては認められません。

平成29年度 6人制ルールの取り扱いについて

1 競技参加者の行為 (PARTICIPANTS' CONDUCT) に関する事項

20.1 スポーツマンにふさわしい行為 (SPORTSMANLIKE CONDUCT)

20.1.1 競技参加者は、公式バレーボール規則に通じていなければならない。また、それを忠実に守らなければならない。

20.1.2 競技参加者は、審判員の決定に対し、スポーツマンらしく反論せず、受け入れなければならない。疑問がある場合には、ゲームキャプテンを通じてのみ説明を求めることができる。(規則 5.2.1.2)

20.1.3 競技参加者は、審判員の決定に影響を与えたり、またはチームの反則を隠したりする行動や態度は避けなければならない。

20.2 フェアプレー (FAIR PLAY)

20.2.1 競技参加者は、審判員だけでなく、他の役員、相手チーム、チームメイト、さらに観衆に対しても、フェアプレーの精神で敬意を示し、礼儀正しく行動しなければならない。

(注)

- 1 競技参加者が、規則 20 に反した場合、警告が与えられる。繰り返した場合は、反則が与えられる。
- 2 競技参加者が、審判員に向かって判定に対して執拗に抗議するような態度をとった場合、警告が与えられる。繰り返した場合は、反則が与えられる。
- 3 監督が副審や記録員に話しかけることができるのは、リベロの再指名の時や得点が正しくない時などの声掛け程度のものであり、説明を求めたり、長く話しかけるようなことはできない。
- 4 プレーイングエリア内で「ガム」を噛んだり、帽子をかぶることは許されない。
- 5 試合終了後、監督・主審・副審はフェアプレーの精神でお互いに「握手」を交わす。

2 プレーの構造 (STRUCTURE OF PLAY) に関する事項

7.3 スターティングラインアップ (TEAM STARTING LINE-UP)

7.3.5 コート上の選手のポジションが、ラインアップシートと違う場合には、次のように対処する：

7.3.5.2 セット開始前、そのセットのラインアップシートに記入されていない選手がコート上にいることが発見された場合は、この選手はラインアップシートに従い変更されなければならない。この場合には制裁はない。

7.3.5.3 しかし、監督がそのようなラインアップシートに記入されていない選手をそのままコートでプレーさせたい場合には、監督は正規の選手交代を、該当するハンドシグナルを用いて要求する必要がある。

4 サービス (SERVICE) に関する事項

12.3. サービスの許可 (AUTHORIZATION OF THE SERVICE)

主審は、両チームがプレーする準備ができ、サーバーがボールを持っていることを確認した後に、サービスを許可する。

12.5 スクリーン (SCREENING)

12.5.1 サービングチームの選手は、1人または集団でスクリーンを形成し、サーバーおよびサービスボールのコースが相手チームに見えないように妨害をしてはならない。

12.5.2 サービスが行われるとき、サービングチームの1人または複数の選手が集団で腕を揺り動かしたり、跳びはねたり、左右に動いたりして、あるいは集団で固まって立ち、ボールがネット垂直面に到達するまでにサーバーとボールのコースの両方を隠すことでスクリーンが形成される。

(注)

- 1 ラリーの終了のホイッスルから次のサービス許可のホイッスルまでの時間を、およそ8秒のテンポで行う。
- 2 ラリー終了のホイッスルの後、選手交代やワイピングがない場合、およそ8秒が経過すればサーバーがサービスゾーンでボールを保持していることを確認し、サービス許可のホイッスルをする。
- 3 低いサービスボールが、形成されたスクリーンの上を通過しネット垂直面を通過したときに、スクリーンの反則が成立する。
- 4 スクリーンを形成していることが明らかな場合、チームに対して注意が与えられる。再発した場合は、マイナーミスコンダクトとして罰則を適用する。

5 主審 (1st REFEREE) ・ 副審 (2nd REFEREE) の責務に関する事項

23.3<主審の>責務 (RESPONSIBILITIES)

23.3.2 試合中、主審は次の権限を持つ。

23.3.2.3 次のことを判定する。

i) サービスボールや3回目のヒットされたボールが主審側のアンテナ上方や外側を通過したとき。

24.3<副審の>責務 (RESPONSIBILITIES)

24.3.2 試合中、副審は次のことを判定し、ホイッスルしてハンドシグナルを示す。

24.3.2.8 サービスボールや3回目のヒットされたボールが副審側のアンテナ上方や外側を通過したとき。

(注)

- 1 サービスボールや3回目のヒットされたボールが主審 (副審) 側のアンテナ上方や外側を通過したときに、主審 (副審) はホイッスルして、ボール “アウト” のハンドシグナルを示す。
- 2 副審はサービスボールがヒットされた後、ボールの軌道を確認する。

6 その他

1 コート上に6人の選手がいないのに、サービス許可のホイッスルをしたとき

コート上に5人だけ、または7人の選手がいるときにサービスのホイッスルをした場合、およびラリーが始まったり完了した場合、主審はそのことに気づいたら直ちに罰則なしにラリーをやり直さなければならない。

2 5回の選手交代を終えた後に、2人の交代選手が選手交代ゾーンに入ってきたとき

副審は監督に1組の選手交代だけが可能であることを伝え、どちらの選手交代を行うかを尋ねなければならない。そこに遅延がなければ他の選手交代は不当な要求として拒否され、記録用紙に記録される。

3 チームがサーバーについて審判団より誤った情報を与えられたとき

そのセットが進行した後に誤りが発覚した場合、誤った情報が与えられた時点の状態にラインナップを戻し、得点も誤った情報が与えられた時点まで戻す。タイムアウト、TTO、罰則はそのまま有効とする。これらの事実は記録用紙に記録されなければならない。